



Winter '09 でビジネスのビジョンを描く

● = IdeaExchange に寄せられたご要望にもとづいて実現した新機能

開発者を支援する強力なツール

Winter '09 では、さらに進化した Force.com を使用して、画期的なアプリケーションをスピーディに開発できます。Force.com IDE を備えたクラウド環境で強化された Apex コードと Visualforce を活用し、エンタープライズクラスのアプリケーションのコーディング、テスト、展開を簡単に実行できます。



ユーザインターフェース as a Service

- | | |
|--------------------------------|---|
| Visualforce | ユーザエクスペリエンス |
| Visualforce での電子メールテンプレートのサポート | カスタムのアプリケーションメッセージ |
| Visualforce ユーザインターフェースのパッケージ化 | オフライン環境でのカスタムオブジェクトとカスタムタブの利用 |
| Visualforce でのリストコントロール | Force.com for Outlook と Lotus Notes 関連の機能強化 |
| Visualforce ダイナミックテンプレート | |
| Visualforce のリストコンポーネントの強化 | |
| Visualforce でのカスタムボタンのサポート | |
| Visualforce ファイルアップロード | |
| Visualforce Mobile の正式リリース | |

ロジック as a Service

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| Apex | ワークフロー |
| ダイナミック Apex の正式リリース | 承認ワークフローのリコール機能 |
| 非同期 Apex コード | 多対多リレーションを持つオブジェクト |
| 高度な SOQL 結合 | でのワークフローと活動のサポート |
| セルフリレーションでのクロスオブジェクト数式項目 | |
| ユーザサイドからの Apex テスト | |

データベース as a Service

- レポート作成のスケジューリングと電子メールによる送付
- ストレージ管理の機能強化

インテグレーション as a Service

- タギング API
- 分析用メタデータ API

デベロップメント as a Service

- Force.com IDE の正式リリース
- 開発者用 Sandbox
- Force.com 移行ツールキット

グローバルで信頼性のある安全なインフラストラクチャ

SAML 2.0

アプリケーションの共有

- Visualforce ユーザインターフェースのパッケージ化
- 管理パッケージの柔軟性の向上

ユーザを成功に導く理想的なアプリケーション

Salesforce Ideas でお客様の素晴らしいアイデアを育て、Salesforce Content で Google ドキュメントを活用して社員のコラボレーションを促進しましょう。Winter '09 では、ユーザ、お客様、そしてパートナーを成功に導くことが、かつてないほど簡単になります。



Salesforce CRM for Google Apps

- Salesforce CRM Content で Google ドキュメントが利用可能に
- Office ファイルを Google Docs に変換
- Gmail To 商談

Salesforce CRM Content

- Salesforce CRM Content で Google ドキュメントが利用可能に
- 商談レポート

Salesforce CRM Ideas

- Salesforce CRM Ideas で Visualforce が利用可能に
- 重複アイデアのマージとステータスタグ
- 私のプロフィールページとリッチテキストのサポート

Salesforce CRM SFA

- 商談分割
- 承認ワークフローのリコール機能
- 行動をクリック操作で作成
- 行動をドラッグ & ドロップで作成
- レポート作成のスケジューリングと電子メールによる送付

Salesforce CRM Marketing

- キャンペーンインフルエンス

Salesforce CRM Call Center

- ケースコメントからのワークフロー
- ケースチーム
- サービスレベルの管理

Salesforce CRM Partner Networks

- モバイル端末で Salesforce CRM Partners が利用可能に
- パートナーポータルでカレンダーと行動が利用可能に
- パートナーポータルで HTML メッセージが利用可能に

Salesforce to Salesforce

- Salesforce to Salesforce でレコードの一括共有
- Salesforce to Salesforce への一括招待
- Salesforce to Salesforce で関連リストを共有
- Salesforce to Salesforce で参照項目を共有

Salesforce CRM Mobile

- iPhone 向け Salesforce CRM Mobile が編集可能に
- Visualforce Mobile の正式リリース
- Salesforce CRM Mobile でダッシュボードが利用可能に
- モバイル端末での PIN 認証
- Salesforce CRM] Mobile でのアクセス制御とタブ管理の強化

注意: 本ドキュメント、その他の公開資料で記述しているリリース前のサービスおよび機能は、現時点ではご利用いただけません。また、将来の提供を確約するものでもありません。弊社サービスのご購入を検討中のお客様は、現在利用可能な機能にもとづいてご購入を判断くださいますようお願いいたします。

Visualforce での電子メールテンプレートのサポート (Group Edition, Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

洗練された電子メールテンプレートを実現

- :: 条件に応じて動的に利用できる電子メールテンプレート
- :: Salesforce アプリケーション内のあらゆる情報を取得可能
- :: 作成したドキュメントを電子メールに組み込み

Summer '08 でリリースした Visualforce により、アプリケーションの要件に応じた Salesforce ユーザインターフェースのカスタマイズが飛躍的に簡単かつ柔軟に行えるようになりました。Winter '09 では、この Visualforce の機能をさらに拡張し、洗練されたフォーマットの電子メールテンプレートを作成する機能を提供します。

開発者は、Visualforce ページと同様に、HTML に似たタグと Apex コントローラを使って、複数のオブジェクトからの情報を表示する電子メールテンプレートを作成できます。書式やスタイルも細かくコントロールできます。たとえば、見込み客に送る見積もり用の電子メールテンプレートを作成して、商談オブジェクトの情報だけでなく、商談品目の情報や製品の保証情報などを盛り込むことができます。さらに、送付先にあわせてパーソナライズした PDF やテキストを動的に作成し、電子メールで送信することもできます。

電子メールの内容やフォーマットは、Apex コントローラのロジックにより、定義したルールに従って動的に変更できます。ケースの状況やオープンになっている日数に応じて特定の項目を強調表示したり追加情報を表示したりすることも、Visualforce で電子メールテンプレートを作成すれば容易に実現できます。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Visualforce ユーザインターフェースのパッケージ化 (Group Edition, Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

Force.com AppExchange を使用してお気に入りの Visualforce ユーザインターフェースをパッケージ

- :: カスタムの Visualforce ユーザインターフェースを組み込んだ AppExchange アプリケーションのインストールやパッケージ化が可能に
- :: Visualforce ページで AppExchange アプリケーションの機能を拡張
- :: アプリケーションの要素をコンポーネント化して共有し、カスタマイズのメリットを最大化
- :: カスタムコンポーネントを作成して配布し、Web サービスのターゲットを拡大

Winter '09 では、Visualforce で作成したページやコンポーネントを AppExchange で配布できるようになります。ISV や開発者は、ページやコンポーネントライブラリを Visualforce で作成し、AppExchange で公開して配布できます。ユーザは、Visualforce の機能を活用した高度なカスタムユーザインターフェースを備えたアプリケーションをインストールできます。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Visualforce リストコントローラ (Group Edition, Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

Visualforce ページにリストを組み込んでユーザエクスペリエンスをカスタマイズ

Summer '08 から Visualforce で標準の詳細ページと編集ページの使い勝手を、きめ細かくカスタマイズできるようになりました。標準およびカスタムのコントローラを使うと、特定のレコード ID に関連付けられたデータを簡単に挿入することができます。

Winter '09 では、Visualforce リストコントローラを実装し、簡単な操作で必要なレコードのセットを自在に作成できるようになります。Visualforce リストコントローラでは次のような機能を提供します。

- リストビューのページを上書きして、事前定義したビューから絞り込み条件を取得
- ページ切り替えと一括操作をわずか 1 行のコードで表現
- SOQL ステートメントを使用して絞り込み設定をリストビューのページに渡す (最大で 5 階層までのオブジェクトリレーションをサポート)
- 任意のページで絞り込み条件を設定してデータ範囲を限定
- 複数のレコードを対象に編集処理を実行
- カスタムのリストボタンをサポート (後述の「Visualforce でのカスタムボタンのサポート」の項を参照)
- Apex を拡張して SOQL を利用

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Visualforce ダイナミックテンプレート (Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

Visualforce ページに対して動的にテンプレートを指定

- :: Visualforce ページのコーディングを簡素化
- :: カスタムユーザインターフェースのデザインを統一
- :: 条件付きの階層とスタイルの提供によりユーザグループを識別

テンプレートは、標準のページ要素、デザイン構成、スタイルを他の Visualforce ページでも使いまわすときに便利な方法です。Winter '09 では、Visualforce ページでテンプレートを定義して、使用するテンプレートを動的に指定できるようになりました。Visualforce ダイナミックテンプレートを使用すると、Visualforce テンプレートのポータルページのデザインと操作性を選択、指定して、プラチナ、ゴールド、シルバーなど顧客のサポートレベルに応じて異なるテンプレートを適用することなどができます。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Visualforce のリストコンポーネントの強化 (Group Edition, Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

Visualforce ページに強化されたリストを挿入

- :: ユーザがレコードのリストを即座にカスタマイズ、管理、編集することが可能に

Summer '08 でリリースしたリストの拡張機能が Visualforce の標準コンポーネントとして利用できるようになりました。このコンポーネントにより、ドラッグアンドドロップ編集、インライン編集 (組織での機能の有効化が必要です)、大量のレコードセットを扱える強力な一括編集などの機能を利用して、リストビューのデータをより簡単に管理できるようになります。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Visualforce でのカスタムボタンのサポート (Group Edition, Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

カスタムボタンを Visualforce ページに関連付けて開発期間を短縮

- :: Visualforce でカスタムボタンを作成して開発期間を短縮

- :: カスタムボタンを使用してリストページで一括処理を簡単に実装

これまで、カスタムボタンは URL、S コントロール、OnClick JavaScript にのみ関連づけられていましたが、Winter '09 では Visualforce ページにも関連づけられるようになりました。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Visualforce ファイルアップロード *(Group Edition, Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)*

標準の Visualforce コントローラを使用してファイルをアップロード

- :: あらかじめ定義済みのコントローラを利用してファイルをアップロード

Visualforce ページにファイルを添付する際に標準のコントローラを使用できるようになり、開発者によるコーディングが不要になりました。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Visualforce Mobile の正式リリース *(トライアル版、Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition。ただし、Professional Edition および Enterprise Edition ではモバイルライセンスが必要)* モバイル端末で Visualforce の機能が使用可能

- :: ワイヤレス接続による Web ページアクセスを提供し、モバイル端末で Visualforce の機能が使用可能
- :: 信頼性の高いローカルのクライアント機能と Web の広範な機能を組み合わせた「ハイブリッド型」モバイルエクスペリエンスを実現
- :: 管理者はさまざまなオブジェクトから Visualforce の要素や項目を選んでひとつのページ上にまとめ、モバイル端末用に表示を最適化することが可能

Visualforce Mobile は、オブジェクトのみをサポートする現行のモバイルクライアントテクノロジーと、あらゆる機能を持つ Salesforce CRM デスクトップアプリケーションとのギャップを埋めるソリューションです。

Visualforce Mobile は、新しいタブ機能により、クライアントアプリケーションのパフォーマンスと Web の柔軟性が合体した「ハイブリッド型」モバイルエクスペリエンスを実現します。管理者は任意のモバイルブラウザを使用して、これまでデスクトップ版の Salesforce CRM でのみ利用可能だったタブなどの機能を有効化できます。これより、Salesforce CRM Mobile サービスのカスタマイズ機能が飛躍的に向上します。

管理者は、モバイル端末用の Visualforce ページを作成し、さまざまなフォームやウィザードをタブとしてモバイルアプリケーション内に実装できます。また、モバイルブラウザ固有の機能も利用できます。

現在、ワイヤレスネットワークの提供エリアは拡大し、データ処理能力も増大しています。こうした状況を背景に、セールスフォース・ドットコムでは、今後も Salesforce CRM Mobile の開発に取り組み、モバイル Web アプリケーションの機能をさらに強化します。まず BlackBerry プラットフォームをサポート、続いてその他のモバイルプラットフォームでも順次サポートを開始します。

注意: この機能は正式リリースとして提供されますが、デフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。また、Salesforce CRM Mobile クライアントを BlackBerry 対応の最新バージョンにアップグレードする必要があります。

[\[トップに戻る\]](#)

カスタムのアプリケーションメッセージ *(Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition,*

Developer Edition)

アプリケーションメッセージのカスタマイズとローカライズ

- :: ユーザが選択した言語でメッセージを表示
- :: サードパーティ製アプリケーションのメッセージをカスタマイズ

Winter '09 では、開発者、ISV、管理者が、Force.com プラットフォームで動作する使いやすい多言語対応のアプリケーションを、非常に簡単に作成できるようになります。ページテキスト、ヘルプ情報、エラーメッセージなどのアプリケーションメッセージをカスタマイズして、Visualforce ページ、Apex、数式項目で使用できます。メッセージは、自動的にエンドユーザが選択している言語で表示されます。

たとえば、管理者は AppExchange からサードパーティ製の Force.com アプリケーションをインストールし、エラーメッセージをカスタマイズしてサポートのフリーダイヤルを案内することができます。また、開発者が言語の表示ロジックを記述し直したり、コードにラベルを追加したりすることなく、Visualforce ページのウェルカムメッセージをユーザの言語設定に基づいて表示できます。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

オフライン環境でのカスタムオブジェクトとカスタムタブの利用 (Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

主要な取引先情報をオフラインで検索して確認

- :: オフラインでカスタムオブジェクトとカスタムタブにアクセス
- :: 新しい管理者コンソールを使って新規リード、新規商談、取引先の最新データ等、ブリーフケースの業務データをオフライン環境で更新

Winter '09 では、インターネットに接続していない環境でも主要な業務データにアクセスできるようになります。新しい管理者コンソールでは、ブリーフケースオブジェクトや一般的なカスタムのオフライン用オブジェクトを、細かくコントロールできます。カスタムオブジェクトは、各タブでオフラインでも使えるようになります。関連リストもすべて利用可能です (これまで標準オブジェクトとの主従関係を持つカスタムオブジェクトのみがサポート対象でした)。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Force.com for Outlook と Lotus Notes 関連の機能強化 (Personal Edition, Group Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition)

より高度なデスクトップ統合を実現

- :: 取引先責任者情報の関連付けでの操作性が向上
- :: パフォーマンスが向上

新しいお客様の成功を支援し、既存のお客様のさらなる生産性向上に貢献するため、セールスフォース・ドットコムではユーザが頻繁に行う作業の効率改善に取り組んでいます。例として、ログイン時の Force.com Web サービス API の処理を効率化して、アプリケーションの応答時間を短縮したことが挙げられます。起動時間の短縮により、電子メールの追加やレコードの関連付けがより手早く行えます。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

ロジック as a Service

ダイナミック Apex の正式リリース (Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

Apex コードを使用した動的で柔軟なプログラミング

- :: アプリケーションのカスタマイズ内容の取得と評価が可能
- :: ユーザ権限をプログラマ的に確認、適用

標準アプリケーションの拡張やカスタムアプリケーションの開発において、エンドユーザによる動的操作をサポートする機能は非常に便利です。たとえば、ユーザのアクセス権限に応じて異なる情報を表示し、アプリケーションの使用権限を動的に適用する Visualforce ページを作成することができます。ダイナミック Apex を使用すると、Describe メソッドを使用してエンドユーザのアクセス権限をチェックしたり動的な SOQL、SOSL、DML を生成したりする、汎用性の高いプロセスを作成できます。これにより柔軟なランタイム動作を実現できます。

- **定義情報の取得**
Describe クラスを使って定義情報を読み込み、組織の環境に展開
- **ユーザ権限の制御**
システムレベルのアクセス管理機能を使用して、必要に応じてユーザ権限を制御
- **柔軟なプログラミング**
動的なクラスやメソッドを使用して実行時の動作を処理し、柔軟性の高い効率的な処理ロジックを実現

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

非同期 Apex コード (Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

Apex コードを使用した非同期処理

- :: 企業のビジネスロジックを非同期的に実行
- :: 非同期 Apex コードの実行ステータスを監視

非同期 Apex コードは、Force.com プラットフォームに非同期処理による高い柔軟性をもたらします。Apex メソッドをアノテーションして、エンドユーザのパフォーマンスに直接影響を与えないように処理ロジックを分離することで、Apex ランタイムでメソッドを非同期的に処理できるようになります。このフレームワークにより、カスタムビジネスロジックの開発段階での柔軟性が増し、Apex トリガによる Apex コードの実行などを簡素化できます。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

高度な SOQL 結合 (Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

クエリ時の柔軟性が向上

- :: 外部データベースにデータをエクスポートすることなく複雑なクエリを実行
- :: セミジョインやアンチジョインをエミュレートするコードを簡素化

セミジョインやアンチジョインのサポートによって SOQL がさらに強力になり、より複雑なクエリを作成できるようになります。

- **セミジョイン**
子クエリの結果に依存する WHERE 条件を使用できます。また、いろいろなキーを使って結合したり、事前定義されたりレレーションが存在しない場合に ID 項目に基づいて結合を実行。さらに、非 ID 項目に基づく結合など、オブジェクトを任意に結合することも可能
- **アンチジョイン**
アンチジョインを使用すると、「結果が偽であった場合」という条件が指定可能。たとえば、関連付けられた応募者レコードが存在しないポジションレコードをすべて返す場合などに、この結合を使用

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

セルフリリースンでのクロスオブジェクト数式項目 (Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition)

管理者がコードを記述せずに実行できる作業範囲を拡大

- :: 親取引先、親ケースなどに基づく計算やビジネスロジックを定義
- :: Visualforce や Apex コードを使わずに管理対象のユーザを把握

Winter '09 では、セルフリリースンのサポートによりクロスオブジェクト数式項目をさらに強化しています。

たとえば、営業担当者が取引先企業の指示システムを確認する場合に、取引先責任者レコードや取引先責任者レポート上で取引先責任者の上司の名前、役職、電話番号、電子メールなどを参照できるようになります。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

ユーザサイドからの Apex テスト (Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition)

任意のユーザとして Apex テストを実行可能

- :: アプリケーションのテスト範囲を拡張
- :: アプリケーションの品質向上を実現

Winter '09 では、開発者が実行ユーザの役割をテスト時に明確に定義できます。この機能により、開発者はプログラマ的にユーザを作成し、各ユーザに固有の共有ルールとシナリオをテスト、検証できます。これはテストの実行に幅広い柔軟性をもたらし、コードカバレッジを簡素化すると同時に拡大します。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

承認ワークフローのリコール機能 (Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition)

ユーザと管理者に優れたコントロールと柔軟性を提供

- :: ユーザが申請の取り消しや再提出を管理者の関与なしに実行
- :: レコード取り消し時の処理に関する管理者のコントロールを強化

承認ワークフローのリコール機能により、承認申請の取り消し時に適切な対応ができるようになります。申請者は、管理者にレコードの再設定を依頼することなく、Force.com のレコードを編集して申請を再提出できます。承認ワークフローのリコール機能は、承認プロセスで更新した項目を元に戻したり、レコードが取り消された場合に関係者に通知を行った用途でも利用できます。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

多対多リレーションを持つオブジェクトでのワークフローと活動のサポート (Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition)

柔軟なデータモデリングにビジネスプロセスの自動化による効率をプラス

- :: レコード間のリレーション作成時にワークフローアクションを実行
- :: レコード間のリレーションに関係する ToDo や行動を追跡

Summer '08 での多対多リレーションのリリースにより、任意のオブジェクトのレコードを異なるオブジェクトの複数のレコードに関連付けたり、その逆の処理を行ったりできるようになりました。Winter '09 では、この多対多リレーションに ToDo や行動などの活動を関連付けて、リレーションの作成時や変更時にワークフローアクションをトリガするように設定できます。

たとえば、採用管理アプリケーションで、応募者レコードを 1 つ以上のポジションに登録でき、また各ポジションレコードに 1 つ以上の応募者レコードに登録できるとします。Winter '09 では、このような状況において、応募者が新しいポジションに登録した場合に電子メールによる通知を行ったり、採用担当者や当該ポジションのマネージャに対するフォローアップ ToDo を作成したりするワークフローアクションをトリガできます。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

データベース as a Service

レポート作成のスケジューリングと電子メールによる送付 (Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

重要なレポートを必要に応じて電子メールで入手

- :: ユーザにレポートを直接送付
- :: ユーザが Salesforce CRM にログインする手間を排除

この機能では、レポートへの適切なアクセス権を持つユーザに対してレポートの作成をスケジューリングし、電子メールで送付することができます。これにより、たとえば、マーケティングマネージャが毎週金曜日にキャンペーンの状況をサマリーレポートとして受け取れるようになります。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

ストレージ管理の機能強化 (すべてのエディション、ただしエディションによって要件が異なる)

ドキュメント、メモ、添付ファイル、コンテンツの利用率を高める

- :: ディスクストレージをデータ用とファイル用に分離
- :: ファイルとデータのストレージ使用状況に関するレポートを強化
- :: ストレージ使用量の多いユーザに関する詳細レポートを提供

Winter '09 では、データとファイルのストレージを別々に管理できるようになり、ストレージをより効率的に割り当てることが可能になりました。これにより、メモ、添付ファイル、ドキュメント、コンテンツの利用率向上を図れます。

- **データとファイルのストレージの分離**
ストレージを汎用的に使用せず、Salesforce 組織ごとにデータ (Salesforce レコードなど) とファイル (メモ、添付ファイル、ドキュメント、Salesforce CRM Content 内のコンテンツなど) に対して別々のストレージを割り当てます。ストレージ容量を追加する場合も、データ用かファイル用かを指定して購入できます。すでに汎用の追加ストレージを購入している場合は、アップグレードでデータ用とファイル用の追加ストレージが割り当てられます。
- **ファイル用ストレージの増加**
これまで、ユーザに割り当てられる 20 MB (Unlimited Edition の場合は 120 MB) のストレージはデータとファイルの両方を保存するために使用していました。Winter '09 では、「Salesforce により多くのファイルを保存したい」というお客様のご要望にお応えして、ファイル用のストレージを無料で追加提供します。添付ファイル、メモ、ドキュメント、Salesforce CRM Content 内のコンテンツの保存に利用できる追加ストレージをユーザごとに 100 MB ご用意します。
- **ファイルとデータのストレージ使用状況の概要レポート**
Winter '09 では、ファイルとデータのストレージの利用状況を通知する概要レベルのレポートを提供します。これにより 2 種類のストレージをより有効に活用できるようになります。
- **ユーザ別、ファイル別のストレージ使用状況の詳細レポート**

概要レポートのほか、ストレージを最も大量に使用しているユーザやファイルを通知するレポートも提供します。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

インテグレーション as a Service

タギング API (Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

プログラマ的なタグ管理を可能に

- :: Force.com Web サービス API を使用したタグデータへのアクセスと操作
- :: ユーザーインターフェースでは利用できないタグ機能へのアクセス

Winter '09 では、タグ機能をさらに強化し、ダッシュボードのタグのサポートや大量のタグの管理が行えるようになりました。API のサポートにより、タグをプログラマ的に管理できます。

- **API によるタグ付け**
API を使用してタグデータや各種機能にアクセスし、カスタムのタグ機能を作成できます。API を使用してタグデータの追加や変更を行ったり、関連付けられたデータを使って自動的にタグ付けしたり、データにタグを割り当てるカスタムボタンや Apex トリガを作成したりできます。また、タグに基づいて表示するデータを決定するカスタムページを追加することもできます。
- **ダッシュボードでのタグ付け**
Winter '09 では、ダッシュボードに公開または非公開のタグを追加して、迅速で直観的なナビゲーションを実現できます。非公開のタグを追加すると、自分の業務にとって重要なビジネスデータを簡単に収集できます。公開タグを使用してダッシュボードを整理し、役員がビジネスの状況を容易に確認できるようにすることもできます。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

分析用メタデータ API (Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

Force.com Web サービス API を使用して分析処理をプログラマ的に管理

- :: 環境間でレポートを移行
- :: 監査レポートを変更
- :: レポート、カスタムレポートタイプ、ダッシュボードを一括で編集、作成、削除

Winter '09 では、メタデータ API でレポート、ダッシュボード、カスタムレポートタイプを新たにサポートします。

- **レポート**
一連のレポートをパッケージ化して別の環境に移行したり、絞り込み条件や絞り込み項目を変更して複数のレポートに一括で変更を加えたりできます。また、他のオブジェクト同様に、API を使用してレポートを作成、編集、削除できます。
- **ダッシュボード**
複数のダッシュボードやダッシュボードパラメータを一括で作成、変更、削除できます。
- **カスタムレポートタイプ**
関連付けられたすべてのレポートやダッシュボードを対象に、レポートのタイプを変更したり、自動的に設定したり、使用しないレポートタイプを削除したりできます。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

ディベロップメント as a Service

Force.com IDE の正式リリース (Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

あらゆる機能を搭載した Force.com プラットフォームの統合開発環境が利用可能に

- :: チーム開発でのコラボレーションを促進
- :: Salesforce インスタンス間で設定データを統合
- :: メタデータ API の新しいタイプをすべてサポート
- :: プロジェクトを詳細に管理

Force.com IDE は、Eclipse をベースにしたプロユースの Force.com のネイティブアプリケーション開発ツールです。Apex や Visualforce 用の高度なコーディング環境、XML ベースのメタデータコンポーネントの編集機能のほか、さまざまな環境におけるアプリケーションのテスト、バージョン管理、実装を行う統合ツールを提供します。

Force.com IDE は Winter '09 において正式にリリースされます。ダウンロードは developer.force.com サイトから無料で行えます。

- **Apex コード**
Force.com IDE は、Apex クラスと Apex トリガの作成および管理を行います。構文エラーを検出し、Apex コードメソッドの修正候補を自動表示します。テスト機能では、単体テストを実行し、エラーメッセージをコードに関連づけ、デバッグ結果とコードカバレッジのレポートを表示します。
- **Visualforce**
Visualforce のページ、コンポーネント、静的リソース、コントローラを編集できます。
- **S コントロール**
HTML 構文の強調表示や差し込み項目の参照機能により、S コントロールをすばやく作成できます。
- **設定のメタデータ**
カスタム項目、カスタムオブジェクト、レイアウト、アプリケーション、プロファイルなど、メタデータ API のあらゆるメタデータコンポーネントを Force.com IDE のプロジェクトとしてダウンロードし、これらを直接編集したり、元の Salesforce 組織に保存し直したりできます。コンポーネントを新規作成することも可能です。
- **展開**
プロジェクトを編集した後は、Force.com Sandbox または Developer Edition 組織でテストを実施し、その後、完成したアプリケーションを運用組織に展開します。プロジェクトは Force.com 移行ツールを使って相互運用できます。
- **Force.com Code Share**
Eclipse 対応のバージョン管理システムと連携し、Force.com アプリケーションのライフサイクル管理のベストプラクティスを適用できます。PaaS (サービスとしてのプラットフォーム) アプリケーションの開発、テスト、展開作業において開発チームのコラボレーションを促進できます。
- **オンラインモード**
Salesforce 組織でローカルのメタデータファイルを最新の状態に維持し、競合する変更を検出して解決します。
- **スキーマブラウザ**
Force.com IDE から Salesforce 組織のスキーマと構成を表示して、SOQL クエリを作成、実行できます。Apex Explorer 同様、スキーマブラウザにはすべての標準およびカスタムのオブジェクトと項目に関する情報が表示されます。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

開発者用 Sandbox (Enterprise Edition, Unlimited Edition)

Sandbox のパワーをすべての開発者に

- :: 開発の複雑さを軽減
- :: 開発作業を迅速化

開発者用 Sandbox では、開発環境の管理が簡単かつ柔軟になり、開発者の生産性が向上します。開発者用 Sandbox は設定専用の Sandbox で、最大で 10MB (約 3,000 レコード) のデータを手動でロードできます。セールスフォース・ドットコムでは、「個々の開発者に運用環境をコピーした専用の Sandbox を使わせたい」というお客様のご要望にお応えして、Unlimited Edition で 15 (既存の顧客組織を含みます) の開発者用 Sandbox を提供します。追加の

Sandbox が必要な場合は、Unlimited Edition および Enterprise Edition でフル機能、または設定のみの Sandbox を購入することでご利用いただけます。開発者用 Sandbox の作成と更新は、フル機能、または設定のみの Sandbox と同じ手順で行えます。

開発者用 Sandbox は従来の Apex Sandbox に代わるもので、全く同じ機能を備えています。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Force.com 移行ツールキット (Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

コードや設定を簡単に移行

- :: XML メタデータファイルによりコードや設定情報を活用
- :: 設定の変更内容を複数の Salesforce 組織に移植
- :: 組織とアプリケーションのメタデータの管理用ツールを作成

Force.com 移行ツールキットは Java/Ant ベースのコマンドラインユーティリティで、ローカルのディレクトリと Force.com 組織間のメタデータの移動に使えます。Force.com 移行ツールキットは、次のような場合に使用すると非常に便利です。

- **マルチステージリリースの処理**
開発プロセスでは、通常、運用環境へのリリース前に構築、テスト、ステージングを繰り返し行います。スクリプトによるコンポーネントの取得と展開が、こうした処理をさらに効率化します。
- **反復的な展開の簡素化**
スクリプトを使用してステージング環境への展開を行い、変更内容と展開プロセスを検証します。その後、このスクリプトを繰り返し使用することで、運用環境に対して信頼性の高い展開処理を行えます。
- **設定の移行情報を含む複雑なスクリプトの自動化**
組織の設定情報の取得と展開を含んだ反復的な処理を行う場合、シーケンスを自動化して作業を減らし、信頼性を高めることができます。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

グローバルで信頼性のある安全なインフラストラクチャ

SAML 2.0 (Personal Edition, Group Edition, Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

簡単、安全なシングルサインオン

- :: シングルサインオンでユーザの使い勝手を改善
- :: ユーザを単一システムで一元管理

Winter '09 では、OASIS 標準の SAML (Security Assertion Markup Language) を使用したシングルサインオン環境を提供します。これにより、SAML 導入済みの組織では Salesforce CRM に低コストでシングルサインオンを実装できます。代理認証とは異なり、SAML を使うにあたっては Salesforce 用のソフトウェアを導入する必要はありません。また、SAML では Salesforce にパスワードを送信しないのでほかの認証方法よりも安全です。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

アプリケーションの共有

Visualforce ユーザインターフェースのパッケージ化 (Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition)

Force.com AppExchange を使用してお気に入りの Visualforce ユーザインターフェースをパッケージ

- :: カスタムの Visualforce ユーザインターフェースを組み込んだ AppExchange アプリケーションのインストールが可能に
- :: Visualforce ページで AppExchange アプリケーションの機能を拡張
- :: アプリケーションの要素をコンポーネントに分割して共有し、カスタマイズのメリットを最大化
- :: カスタムコンポーネントを作成して配布し、Web サービスの提供ターゲットを拡大

Winter '09 では、Visualforce で作成したページとコンポーネントを AppExchange で配布できるようになります。ISV や開発者は、ページやコンポーネントライブラリを Visualforce で作成し、AppExchange マーケットプレイスで公開して配布できます。ユーザは、Visualforce の機能を活用した高度なカスタムユーザインターフェースを備えたアプリケーションをインストールできます。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

管理パッケージの柔軟性の向上 (Developer Edition)

管理パッケージを使用する開発者に対してより高度な柔軟性を提供

- :: パッケージを新規作成せず、更新することで時間を節約

Winter '09 では、管理パッケージの柔軟性を強化し、開発者によるアプリケーションの将来的な拡張を可能にします。最初のリリース後に次のような更新を実行できます。

- リリース済みのオブジェクトに対するレポートと活動の有効化
- カスタムレポートタイプのアップグレード
- リリース後にコンポーネントのラベル項目を更新
- リリース後に登録者が管理する項目を編集

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Salesforce CRM Content で Google ドキュメントが利用可能に (Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition)

Salesforce CRM Content で Google ドキュメントを活用してパートナーやお客様とのコラボレーションを促進

- :: Salesforce CRM Content を使用して Google Apps のドキュメントを共有
- :: Salesforce CRM Content で Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Google プレゼンテーションを作成
- :: すべての関連資料を一元管理し、コンテンツの利用状況が追跡可能

大きな添付ファイルや、膨大な数のフォルダからファイルを簡単に探し出せたり、コラボレーションツールの煩雑なバージョンアップ作業から解放されたりすれば、コラボレーションが非常に効果的に行えます。Winter '09 では、Salesforce CRM Content と Google ドキュメントを統合し、ドキュメントの作成、共有、フィードバック収集などのプロセスをすべて Web 上で行えるようになります。これにより作業の負担が減り、チームでコラボレーションを図りながら、仕事を効率的にこなせるようになります。

- **Google Apps で作成したドキュメントを Salesforce CRM Content で公開**
Salesforce CRM Content を使用して、Google Apps で作成したコンテンツを社員間ですばやく共有することができます。Salesforce CRM Content では、さまざまなユーザが作成したあらゆるコンテンツをまとめて検索できます。
- **Salesforce CRM Content から Google Apps でドキュメントを直接作成**
Salesforce CRM Content 内で Google Apps を使って資料を作成することで、作業時間を節約できます。
- **使用状況を追跡して同僚からのフィードバックを収集**
資料の使用状況を追跡したり、エンドユーザの投票やコメントを確認したりして、どの Google Apps ドキュメントが高い評価を得ているかを把握できます。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Office ファイルを Google Docs に変換 (すべての Edition)

Office ファイルを Google ドキュメントに変換し、クラウド環境でのコラボレーションを実現

- :: 既存の Microsoft Office ファイルを変換して Google ドキュメントを即座に作成
- :: ファイル添付やバージョン管理からの解放

Winter '09 では、Salesforce 内で既存の Microsoft Office ファイルを Google ドキュメントに変換することが可能になります。これにより、クラウド環境でのコラボレーションをこれまでになく簡単に行えるようになります。たとえば、商談用に新しいプレゼンテーションを作成する場合、デスクトップから既存の Microsoft PowerPoint ファイルをアップロードして変換し、Google プレゼンテーションを作成することができます。Salesforce CRM では、Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPoint、リッチテキスト形式など、主要なファイルタイプをすべてサポートしています。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Gmail To 商談 (すべての Edition)

Gmail とのシームレスな連携により効果的なセールスを実施

- :: 営業チームの活動状況の可視性が向上
- :: 活動をリード、取引先責任者、商談に関連付け

Summer '08 で、Gmail と Salesforce の連携を実現し、活動をリードや取引先責任者に関連付けられるようになりました。Winter '09 では、商談に対しても活動を関連付けることが可能になり、これにより営業チームの活動の概要を容易に把握できるようになります。また、電子メールの件名や本文にレコード ID を含めると、その活動を標準オブジェクトやカスタムオブジェクトに関連付けることができます。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Salesforce CRM Content

Salesforce CRM Content で Google ドキュメントが利用可能に (Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition)

Salesforce CRM Content で Google ドキュメントを活用してパートナーやお客様とのコラボレーションを促進

- :: Salesforce CRM Content を使用して Google Apps のドキュメントを共有
- :: Salesforce CRM Content で Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Google プレゼンテーションを作成
- :: すべての関連資料を一元管理し、コンテンツの利用状況が追跡可能

大きすぎる添付ファイルや、コラボレーションツールの煩雑なバージョンアップ作業、膨大な数のフォルダからファイルを探し出すことは、コラボレーションの阻害要因となります。Winter '09 では、Salesforce CRM Content と Google ドキュメントを統合し、ドキュメントの作成、共有、フィードバック収集などのプロセスをすべて Web 上で行えるようになります。これにより作業の負担が減り、チームでコラボレーションを図りながら、仕事を効率的にこなせるようになります。

- **Google Apps で作成したドキュメントを Salesforce CRM Content で公開**
Salesforce CRM Content を使用して、Google Apps で作成したコンテンツを社員間ですばやく共有できます。Salesforce CRM Content では、さまざまなユーザが作成したあらゆるコンテンツをまとめて検索できます。
- **Salesforce CRM Content から Google Apps でドキュメントを直接作成**
Salesforce CRM Content 内で Google Apps を使って資料を作成することで、作業時間を節約できます。
- **使用状況を追跡して同僚からのフィードバックを収集**
資料使用状況を追跡したり、エンドユーザの投票やコメントを確認したりして、どの Google Apps ドキュメントが高い評価を得ているかを把握できます。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

商談レポート (Professional Edition, Enterprise Edition, Unlimited Edition)

商談の成約に役立つ資料を見きわめる

- :: 商談、取引先等のオブジェクトに関連付けられたコンテンツの使用状況を細かくレポートする機能を提供
- :: 特定のタイプの商談に最も役立つコンテンツを判断できるようにレポートをカスタマイズ

Winter '09 では、商談レポートを使用してセールスの拡大に役立つ資料を把握して、新規顧客の獲得につながる営業用のプレゼンテーションや製品資料を見きわめることが可能になります。

- **コンテンツと商談の関係を把握できるカスタムレポート**
商談レコードに関連付けられた特定の競合相手や製品に関する資料を取得するカスタムレポートを作成できます。資料が十分に活用された商談を特定することにより、コンテンツ開発での ROI の測定が可能になります。
- **コンテンツとその他の Salesforce オブジェクトの関係を把握できるカスタムレポート**

取引先、取引先責任者などの Salesforce オブジェクトに最も多く関連付けられている資料を特定できます。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Salesforce CRM Ideas

Salesforce CRM Ideas で Visualforce が利用可能に (*Enterprise Edition および Unlimited Edition*)
ピクセル単位のコントロールにより、ユーザの Web サイトと完璧に統一のとれたデザインと操作性を実現

- :: ユーザエクスペリエンスを自在にコントロール
- :: カスタムコントローラで CSS とマークアップを変更して Salesforce CRM Ideas を拡張

Winter '09 では、Salesforce CRM Ideas で Visualforce が使えるようになります。これにより、Force.com プラットフォームを活用して Salesforce CRM Ideas のインターフェースをピクセル単位でコントロールし、組織の要件に最適なユーザエクスペリエンスを実現できます。Visualforce は、Salesforce CRM Ideas アプリケーションを構成する一連のテンプレートをすべてサポートします。ページの自在な制御が可能で、CSS、HTML の編集はもとより、コントローラ自体を操作することもできます。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

重複アイデアのマージとステータスタグ (*Enterprise Edition, Professional Edition, Unlimited Edition*)
強化された管理機能により高いデータ品質を維持してコミュニティを拡大

- :: 重複のマージや不適切な表現のブロックといった管理作業を自動化
- :: トップアイデアをタイムリーに更新し、コミュニティの意見を反映していることをユーザにアピール
- :: 各テーマのエキスパートがコミュニティに積極的に参加していることを示せる

コミュニティが拡大、活発化するにつれ、合理的なコミュニティ管理の重要性は高まります。Winter '09 リリースでは、次のような新機能でコミュニティ管理を大幅に合理化します。

- **重複アイデアのマージ**
コミュニティの管理者は、簡単なマウス操作で重複した投稿をマージすることが可能
- **重複の通知と入力規則の適用**
重複した投稿の発生を回避し、不適切な表現の使用を防止
- **エキスパートアイコン**
コミュニティのエキスパートが参加していることをアピール
- **ステータスタグ**
優れたアイデアを見逃さないようにするための手段として活用
- **投票の削除**
コミュニティの管理者は誤った投票を削除可能

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。重複の通知機能は、Visualforce ページでのみご利用いただけます。

[\[トップに戻る\]](#)

私のプロフィールページとリッチテキストのサポート (*Enterprise Edition, Professional Edition, Unlimited Edition*)

パーソナライズされた高度なエクスペリエンスを提供してコミュニティを活性化

- :: 個々のコミュニティメンバーのページからプロフィールを作成

:: リッチテキストのサポートにより、ユーザはアイデアを思いどおりに表現することが可能

Winter '09 リリースでは、エンドユーザによるコミュニティへの参加を促すための画期的な新機能を提供します。

- **私のプロフィールページ**
アイデアの投稿、コメント、投票など、個々のコミュニティメンバーの活動をまとめて表示
- **アイデアでのリッチテキストのサポート**
ハイパーリンクの投稿などが可能になり、アイデアをより洗練された方法で伝えられる
- **コミュニティニックネーム**
コミュニティで使用するニックネームを選択
- **反対投票**
アイデアに対する反対投票が可能
- **複数カテゴリ**
アイデアに複数のコミュニティのタグを付けられるようになり、より多彩な議論の展開が可能

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Salesforce CRM SFA

商談分割 (パイロットリリース – Developer Edition, Unlimited Edition, Enterprise Edition)

ユーザとチームのパイプライン追跡の精度を向上

- :: 協力関係にあるチームとの連携
- :: 各チームメンバーのパイプラインに対する貢献度をより詳細に把握
- :: 情報源を集約して商談分割に関するデータの品質を向上

営業部門では、複数の担当者がチームを編成し、重要案件の獲得に取り組むことがしばしばあります。このような場合、各担当者の意欲をかきたててチームをまとめるには、正当な報酬を与えることが重要です。

- **営業チームへのスプリット比率の割り当て**
案件に関与しているチームメンバーの管理には既存のチームセリング機能を使用できますが、Winter '09 では新たにチームメンバーの報酬をパーセンテージで割り当てることが可能になります。これにより、特定の案件に対する各担当者の業績を把握するために商談レコードをいくつも作成する必要がなくなります。
- **精度の高いパイプラインレポートの作成**
営業担当者や営業部門のマネージャは、個々のチームメンバーの貢献度を正確に反映したパイプラインレポートを作成できます。商談分割レポートでは、商談は分割の有無にかかわらず自動的にレポート対象に含まれるため、パイプライン全体を簡単に把握することができます。

注意: この機能を有効化するには、セールスフォース・ドットコムのカスタマーサポートまでお問い合わせください。商談分割を使用するには、チームセリングを有効化する必要があります。

[\[トップに戻る\]](#)

承認ワークフローのリコール機能 (Enterprise Edition, Unlimited Edition, Developer Edition)

ユーザと管理者に優れたコントロールと柔軟性を提供

- :: ユーザによる申請の取り消しや再提出を、管理者の関与なしに実行
- :: レコード取り消し時の処理に関する管理者のコントロールを強化

承認ワークフローのリコール機能により、承認申請の取り消し時に適切な対応ができるようになります。申請者は、管理者にレコードの再設定を依頼することなく、Force.com のレコードを編集して申請を再提出できます。承認ワークフローのリコール機能は、承認プロセスで更新した項目を元に戻したり、レコードが取り消された場合に関係者に通知を行ったりする用途でも利用できます。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

行動をクリック操作で作成 (すべての Edition)

行動の作成を効率化

- :: 日表示または週表示のカレンダーから簡単なマウス操作で行動の作成が可能に
- :: 行動のミニページレイアウトを使用して機能を適用する項目を指定

Winter '09 では、カレンダーをダブルクリックして行動の詳細を入力し、そのままデータを保存することが可能になります。保存を行うためにほかのページに移動する必要はありません。管理者は、行動作成画面のレイアウトやコンテンツを設定できます。

- **企業のニーズに応じて項目を作成**
簡単なマウス操作で顧客の名前、場所、電話番号など、行動の標準データを表示する項目を設定できます。また、マウス操作で行動を作成した場合に挿入するカスタム項目を定義することも可能です。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

行動をドラッグ & ドロップで作成 (すべての Edition)

行動の作成を簡単に

- :: リストビューのレコードを週間カレンダーにドラッグするだけで行動の作成が可能に

顧客情報をカレンダーにドラッグ & ドロップするだけで取引先、取引先責任者、見込み客との打ち合わせをスケジュールリングできるようになり、行動の作成が簡単になります。リストビューから週表示したカレンダーの任意の時間帯に顧客レコードをドラッグ & ドロップし、詳細情報を追加後、リストビューからそのまま行動を保存できます。名前や電話番号といった顧客情報は自動的に行動に関連づけられます。

- **組織の要件に合わせてドラッグ&ドロップカレンダーの表示項目が設定可能**
ドラッグ & ドロップカレンダーに標準で表示する項目 (名前、場所、電話番号等) を、ミニページレイアウトで設定できます。ドラッグ & ドロップカレンダーから作成した行動にカスタム項目を設定することも可能です。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

レポート作成のスケジュールリングと電子メールによる送付 (Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition)

重要なレポートを必要に応じて電子メールで入手

- :: ユーザにレポートを直接送付
- :: ユーザが Salesforce CRM にログインする手間を排除

この機能では、レポートへの適切なアクセス権を持つユーザに対してレポートの作成をスケジュールリングし、電子メールで送付することができます。これにより、たとえば、マーケティングマネージャが毎週金曜日にキャンペーンの状況をサマリーレポートとして受け取れるようになります。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

キャンペーンインフルエンス (すべての Edition)

商談に影響を与えたすべてのキャンペーンを即座に把握

- :: 複数のキャンペーンを単一の商談に関連付け
- :: 商談に対するキャンペーンの直接的/間接的な ROI を測定

Winter '09 では、パイプライン作成に影響を与えたすべてのマーケティングキャンペーンを把握できます。この機能では、カスタムのビジネスロジックに基づいてキャンペーンを自動的に商談に関連付けることができるため、マーケティングプログラムのパフォーマンスを的確に分析できます。

- **影響を与えたキャンペーンを手動で追加**
営業チームは、キャンペーンインフルエンスの関連リストから影響を与えたキャンペーンを直接追加できます。
- **カスタムロジックによる関連付けの自動化**
取引先責任者に関連付け、成約日より前に商談に追加したキャンペーンは、キャンペーンインフルエンスの関連リストに自動的に取り込まれます。こうした関連付けのルールは、キャンペーンやキャンペーンメンバーに関する標準項目、カスタム項目をベースに条件を設定してカスタマイズすることができます。
- **標準レポートを活用**
エンドユーザは、新しい標準レポートを使用して、キャンペーンが商談に影響を与えているかどうかを簡単に把握できます。

注意: レポートはデフォルトで表示されます。関連付けのロジックでは、一部設定が必要になります。

[\[トップに戻る\]](#)

ケースコメントからのワークフロー (Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition)

組織全体でプロセスを自動化

- :: ケースコメントをワークフローに割り当て

複雑なケースプロセスは組織内のさまざまな部署にまたがっており、ケースを適切に解決に導くには複数の関係者からの情報提供やアクションが必要となります。ケースコメントからのワークフローを使用すると、こうしたプロセスを完全に自動化できます。ケースコメントの変更は自動的に監視され、何らかの変更が行われるとその内容に基づいて適切な処理を実行します。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

ケースチーム (Enterprise Edition および Unlimited Edition)

複雑なケースで生産性とコラボレーションの向上を実現

- :: ケースに共同で対応する固定的なチームを編成
- :: 特定のケースに対応する専門チームを編成

ケースへの対応では、ケースプロセスに関わり問題解決を支援する、すべてのメンバーを明確に把握することが重要です。ケースチーム機能では、特定の取引先を受け持つ固定的なチームを編成したり、特定のケースに対応する専門チームを編成したりできます。これにより、ケース関連の共有モデルの柔軟性がさらに強化されます。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

サービスレベルの管理 (Enterprise Edition, Unlimited Edition)

顧客のサービスレベルを常に把握

- :: ケースプロセスで顧客のサービスレベルを正確に監視
- :: 取引先や納入商品にサービスレベルを割り当て
- :: 取引先、取引先責任者、契約、納入商品、カスタマーポータルからサービスレベルを取得してケースレコードを作成

ケースプロセスにおいて、顧客へのサービスレベルを監視することは非常に重要です。Winter '09 では、顧客に提供すべきサービスレベルを完全に把握できるようになります。この機能により、各顧客に対する初回回答時間、問題解決までの時間などの情報をケースレコードで確認することが可能になります。

注意: この機能は Entitlements 2.0 というアドオンとして提供しており、Force.com AppExchange から入手できます。

[\[トップに戻る\]](#)

Salesforce CRM Partner Networks

モバイル端末で Salesforce CRM Partners が利用可能に (Enterprise Edition, Unlimited Edition, ゴールドのパートナーポータルライセンス)

モバイル機能のサポートによりパートナーのロイヤリティと生産性の向上を実現

- :: パートナーに時と場所を選ばないアクセスを提供
- :: モバイル端末でのパートナーポータルの利用が可能に
- :: 顧客データや営業データを外出先でも更新

チャネルパートナー、仲介業者、代理店などの担当者は、お客様を訪問するためにしばしば外出しますが、ノートパソコンを持っていなかったり、ノートパソコンを持っていてもインターネットにアクセスできなかつたりします。しかし、商談を成功させるには、どこにいても顧客データや営業データを参照できるようにすることが必要です。Winter '09 の機能強化により、パートナーはモバイル端末からリード、商談、取引先などの標準オブジェクトやカスタムオブジェクトを参照したり更新したりできるようになります。

- **モバイル端末用の [ポータル] タブ**
ポータルからでもモバイル端末からでも営業データへのアクセスが可能
- **レコードの参照と更新**
場所を選ばず顧客データや営業データの参照、更新が可能
- **モバイル端末のサポート**
RIM (BlackBerry)、Palm、Microsoft、Apple (iPhone) のモバイル端末を使用しているパートナーは、直ちに営業活動を開始可能

注意: ゴールドのパートナーポータルライセンスの料金には、パートナー用のモバイルライセンスは含まれておりません。別途ご購入いただく必要があります。詳細は、セールスフォース・ドットコム担当者までお問い合わせください。

[\[トップに戻る\]](#)

パートナーポータルでカレンダーと行動が利用可能に (Enterprise Edition, Unlimited Edition, シルバーおよびゴールドのパートナーポータルライセンス)

カレンダーと行動を活用して、パートナーの生産性を向上

- :: チャネルパートナーに対してスケジュールを管理できる直観的で堅牢なカレンダー機能を提供

:: マーケティングやパートナープログラムに関するイベントをパートナーのカレンダーに送信

パートナーは、お客様対応の予定を記録しながらスケジュールを管理する必要があります。Winter '09 では、パートナーポータルでカレンダーと行動が利用可能になり、パートナーは直観的な Web 2.0 系のカレンダー機能を使ってスケジュールを簡単に管理できます。また、パートナーにマーケティングイベントの内容、場所、日時などの詳細を送信して参加を促すこともできます。

- **包括的なカレンダー管理**
パートナーはカレンダーを、日表示、週表示、月表示のビューで使用可能
- **カレンダーの共有**
パートナーはカレンダーをほかのユーザと共有可能。マルチユーザカレンダーを使用すると、会議のスケジュールリングが簡単に
- **マーケティングイベントの通知**
開催予定のマーケティングイベントを、パートナーのカレンダーに直接送信して通知することが可能

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

パートナーポータルで HTML メッセージが利用可能に (Enterprise Edition、Unlimited Edition、ゴールドのパートナーポータルライセンス)

パートナーとマーケティングメッセージを共有

- :: チャネルパートナーに状況に応じたメッセージを提供
- :: パートナーにプロセスを案内するために、HTML 形式でメッセージを送信
- :: HTML 形式のメッセージを使って、あらゆる言語のメッセージをブランディング

チャネルパートナーを成功に導くには、時間や手間をかけた育成が重要であると言われています。Winter '09 からパートナーポータルで HTML 形式のメッセージを使えるようになります。これにより、プロセス、製品、営業に関する情報を主要なポータルページに表示して、企業のメッセージを的確に伝えられるようになります。これにより、パートナー育成の効率化が図れます。ブランディングした HTML コンテンツを標準オブジェクトとカスタムオブジェクトの各ホームページ上に設定できるようになるほか、パートナーに対して新製品、プロモーション、パートナープログラムなどの情報を迅速に伝えることも可能になります。さらに、パートナー業務を支援するガイダンスを提供することもできます。

- **HTML の編集**
HTML メッセージを作って複数の言語で世界各地の拠点に対してメッセージの発信が可能
- **すべてのポータルページのブランディング**
メッセージをブランディングして、カスタムオブジェクトのページを含むすべてのポータルページに表示可能

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Salesforce to Salesforce

Salesforce to Salesforce でレコードの一括共有 (すべての Edition)

複数のレコードを一度に共有

- :: リストビューで複数のレコードを簡単に選択して共有
- :: 関連リストのレコードも一度に共有が可能

これまででは、Salesforce to Salesforce で複数のレコードを共有したいと思っても一度に 1 つのレコードしか選択できず、作業は非常に面倒でした。Winter '09 ではレコードの一括共有機能により、リストビューを使って条件を定義し、関連レコードを含む複数のレコードを、任意の数の接続先企業と簡単に共有できるようになります。

- **共有条件の定義**

リストビューを使用して共有対象を設定し、共有したいすべてのレコードを一度に選択

- **一括共有時に関連リストも共有**
関連リストを共有して、多数の親レコードを関連付けられたすべての子レコードと合わせて共有可能

注意: この機能は、Salesforce CRM のお客様に対してデフォルトでは有効ではありません。この機能は、システム管理者と [接続の管理] 権限のあるユーザのみが使用できます。

[\[トップに戻る\]](#)

Salesforce to Salesforce への一括招待 (すべての Edition)

任意の Salesforce CRM ユーザと無料で接続

- :: すべての Salesforce CRM ユーザの相互接続とレコードの共有を無料で実現
- :: 複数の接続への招待を一度に送信

Winter '09 では、使用している Edition にかかわらず、Salesforce CRM ユーザ同士が自由に接続できるようになります。一括招待機能では、大量の取引先責任者に一度に招待を送信することができ、情報共有を容易に実現します。

- **招待時に複数の電子メールアドレスを指定**
ワンクリックで、有効な電子メールアドレスを持つ複数の取引先責任者に招待を送信できます。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Salesforce to Salesforce で関連リストを共有 (すべての Edition)

より多くの情報を共有してコラボレーションを促進

- :: ワンクリックでオブジェクトと関連リストを即座に共有
- :: 接続先企業が関連リストの詳細の受け入れ、または、拒否を選択可能
- :: 取引先に関する包括的な情報を提供してビジネスの可視性を向上

Winter '09 では接続先企業との間で、取引先に関するより多くの情報を共有できます。活動、商談、取引先責任者、注文などの関連データを含んだ包括的な取引先情報を共有することが可能になります。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Salesforce to Salesforce で参照項目を共有 (すべての Edition)

接続先企業に対してより多くの情報を提供

- :: レコードの所有者を把握
- :: チャンネルマネージャとパートナー側の担当者の連携を強化
- :: キャンペーンの情報把握

レコードの詳細を共有することは、より良いコラボレーションのために不可欠です。Winter '09 では、Salesforce to Salesforce で参照項目の共有が可能になり、接続先企業はレコードの所有者、商談、キャンペーンなどに関する情報を詳細に把握できるようになります。これにより、商談の担当者、リード獲得に貢献しているキャンペーンなどを具体的に知ることができます。

- **関連情報の参照**
参照関係が設定された標準項目とカスタム項目で、参照先の情報を接続先企業と共有可能
- **参照項目の同期**
同期により、参照先の情報を適切に更新

注意: この機能はデフォルトで表示されます。設定は不要です。

[\[トップに戻る\]](#)

Salesforce CRM Mobile

iPhone 向け Salesforce CRM Mobile レコードが編集可能に (トライアル版、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition。Professional Edition および Enterprise Edition ではモバイルライセンスが必要)

iPhone で Salesforce レコードを編集、作成、削除

∴ 既存レコードの編集、新規レコードの作成、不要なレコードの削除を iPhone で直接実行

iPhone の簡単なナビゲーションと洗練された画面が、Salesforce CRM Mobile プラットフォームのパワーと合体します。

この iPhone 向けの新機能により、ユーザは読み取り専用だった Salesforce CRM データを自由に編集できるようになります。新しいレコードをスピーディに作成したり、不要なレコードを削除したりすることも可能です。操作は、項目にタッチして iPhone キーボードで行います。この編集機能は、Salesforce CRM Mobile がサポートする標準オブジェクトとカスタムオブジェクトに適用されます。

今回の機能強化により、すでにサポート済みの BlackBerry などのデバイスと同様のメリットを iPhone でも享受できるようになります。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。ただし、アップグレードが必要となります。

[\[トップに戻る\]](#)

Visualforce Mobile の正式リリース (トライアル版、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition。Professional Edition および Enterprise Edition ではモバイルライセンスが必要)
モバイル端末で Visualforce の機能を実現

- ∴ ワイヤレス接続による Web ページアクセスを提供し、モバイル端末で Visualforce の機能を実現
- ∴ 信頼性の高いローカルのクライアント機能と Web の広範な機能を合体して優れたモバイルエクスペリエンスを提供
- ∴ 管理者はさまざまなオブジェクトから Visualforce の要素や項目を指定して単一のページを構成し、モバイル機器での表示を最適化することが可能

Visualforce Mobile は、オブジェクトのみをサポートする現行のモバイルクライアントテクノロジーと、あらゆる機能を提供する Salesforce CRM デスクトップアプリケーションとのギャップを埋めるソリューションです。

新しいタブ機能により、クライアントアプリケーションのパフォーマンスと Web の柔軟性が合体した優れた複合型モバイルエクスペリエンスを実現します。管理者は任意のモバイルブラウザを使用して、これまでデスクトップ版の Salesforce CRM でのみ利用可能だったタブなどの機能を、モバイル機器でも有効にできます。これより、Salesforce CRM Mobile サービスのカスタマイズ機能が飛躍的に向上します。

管理者は、モバイル機器で使用できる Visualforce ページを作成し、さまざまなフォームやウィザードをタブとして即座に公開できます。ここでは、モバイルブラウザ固有の機能も利用できます。

現在、ワイヤレスネットワークの提供エリアは拡大し、データ処理能力も増大しています。こうした状況を背景に、セールスフォース・ドットコムでは、今後も Salesforce CRM Mobile の開発に取り組み、モバイル Web アプリケーションの機能をさらに有効に活用できるようにします。まず BlackBerry プラットフォームをサポートし、その他のモバイルプラットフォームでも順次サポートを開始します。

注意: この機能は正式リリースとして提供されますが、デフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。また、BlackBerry 対応の最新バージョンの Salesforce CRM Mobile クライアントにアップグレードする必要があります。

[\[トップに戻る\]](#)

Salesforce CRM Mobile でダッシュボードが利用可能に (トライアル版、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition。Professional Edition および Enterprise Edition ではモバイルライセンスが必要)

モバイル端末で Salesforce のダッシュボードにすばやくアクセス

- :: ダッシュボードを使用したパフォーマンスの表示と追跡を外出先からモバイル端末で実行
- :: ダッシュボードをタブから参照

Winter '09 では、外出先からダッシュボードのデータを確認したいと望んでいるマネージャや営業担当者に最適の機能をリリースします。

システム管理者がモバイル端末からのダッシュボードへのアクセスを許可すると、ユーザは Salesforce CRM のすべてのダッシュボードにアクセスできるようになります。ダッシュボードは非常に利用頻度の高い機能で、これがモバイル端末から使えるようになることで Salesforce CRM の活用範囲がさらに高まります。

注意: この機能は正式リリースとして提供されますが、デフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。また、BlackBerry 対応の最新バージョンの Salesforce CRM Mobile クライアントにアップグレードする必要があります。

[\[トップに戻る\]](#)

モバイル端末での PIN 認証 (トライアル版、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition。Professional Edition および Enterprise Edition ではモバイルライセンスが必要)

ログイン時にユーザ名とパスワードを PIN 番号に置き換えて保護

- :: モバイルユーザのデータ流出を防止
- :: 各種セキュリティスキームを有効化

モバイル端末での PIN 認証では、ユーザが気付かないうちに Salesforce のログイン情報が盗まれてしまうことを防ぐために、ユーザ名とパスワードを 5 桁の一意の PIN 番号に置き換えます。

この情報が Salesforce アカウントと安全に対応付けられた後は、ユーザ名とパスワードの認証は不要となります。そのほか、Winter '09 では 2 要素認証や代理認証などのセキュリティスキームの対応が簡単になります。多くの企業がセキュリティに関する組織内のポリシーや対策の見直しに取り組んでいる中、こうした機能拡張は強く求められています。

この機能は iPhone および BlackBerry を対象とした正式リリースです。その他のモバイルプラットフォームについては今後対応予定です。

注意: この機能はデフォルトで表示されます。ただし、アップグレードが必要となります。

[\[トップに戻る\]](#)

Salesforce CRM Mobile でのアクセス制御とタブ管理の強化 (トライアル版、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition。Professional Edition および Enterprise Edition ではモバイルライセンスが必要)

データへのアクセス権をよりきめ細かく制御

- :: モバイルユーザのデータへのアクセス権を柔軟に制御
- :: 簡単なタブ管理機能によりタブの追加、削除、並べ替え処理を簡素化

Winter '09 では、管理者がユーザのデータへのアクセス権をより柔軟に制御できるようになります。管理者は、ユーザが外出先でモバイル端末から Salesforce データをやりとりする方法を決定できます。具体的には、モバイル端末で参

照、編集、作成、削除できるデータを指定できます。これにより、たとえば、モバイル端末向けの在庫管理ツールで、ユーザに対して特定の製品の数量変更を許可し、新しい製品や在庫エントリの作成は禁止することなどができます。こうした設定はモバイル管理コンソールから実行できます。

タブ管理機能では、モバイル端末で使用するタブを指定して、表示する順序を変更することができます。また、ユーザのニーズに基づいて、ユーザごとに異なるタブを表示するように指定することも可能です。

注意: この機能はデフォルトでは表示されません。機能は有効ですが、設定が必要です。

[\[トップに戻る\]](#)